



## 『豊かな保育を育む』



理事 平川 公三

今年度4月より、一般社団法人東京都民間保育園協会として、新しいスタートとなりました。又、保育界においても、保育三団体が協議会としてスタートすることが決まりましたが、各保育園としては、来年度4月に向けた、新しい制度準備に追われる今日この頃ではないでしょうか。

国の考えが決まったとしても、都の動き、そして各市区町村が従来の児童福祉法を考慮して対応してほしいと願っているところです。園としては、情報収集や研修会の出席に追われたり、子育て支援新制度ハンドブックや各団体の会議の情報をもとに、職員と学んで園づくりを考えているところだと思います。私とすれば、現在、それ以前から取り組んできた保育園があるわけですから、特別な考えは必要ないと思います。園を利用している子ども達の環境や、保育の置かれている立場が変わる訳ではない、向上させなければならない、法に定められている、一人一人の子ども達が地元小学校と連携をとることにより、保育園の役割が重要となる。もう一度見つめ直すことが大切と考えています。また、教育と言うことが重視されていますが、これも地域で育った文化の中で、保育が育つのではないのでしょうか。

私の園では、年間行事の多い中で、子ども達と共に育つ行事として、4月のふじ祭り、11月の芋煮会に、地域の老人会と交流する為、5歳児クラスがお誘いの内容の手紙を書いています。その他にも、10月の運動会、12月のリズム発表会には、市の情報誌に掲載して近隣に呼び掛け、見学できることを知らせています。また、この地域で昔からの行事である餅つき大会は、保護者を集めて行い、2月の節分豆まきには、伝統を取り入れた、ひいらぎの枝に、鯛の頭を刺して火であぶり、焦げるにおいを出して、室の中に悪い鬼が入ってこない、お祓いを行うことも取り入れています。この地域に昔からある催しを取り入れて、子ども達と味わうことで、健康で明るい子ども達に育てることを考えています。行事によって、触れ合うことにより温かさを知る。行事を通していたわり合うことにより、大切さを知る。行事を行ったことにより、ゆずり合うことで自信が持てる事を知る。また、職員とすれば、行事を行う前、行った後で保育の成り立ちを各自が自信につなげていくことになると考えて行っています。

また、当園では当番制を取り入れています。3歳児クラスでは、ガラスの水槽で金魚を飼育しています。職員が責任を持って見守って、子ども達と今日は元気に泳いでいるか、餌をあげたかと、天候を見ながら進めています。4歳児については、小鳥の飼育当番を2人一組で、園庭にある鳥小屋を見守り、「これから鳥当番を始めます」と挨拶をしてから始めます。朝、小屋の中の掃除、及び餌づくりで、鳥が元気であることを確かめて進めており、お世話を行った後に、日誌に書き込むことを経験しています。今日は何日、天候、気温、自分の名前を書くことができる様にしています。これは、全てができることを望んでいるのではなく、見ること、試すことから、子ども達が芽生えようとする力、持っている力から自信につなげて、楽しい一日が過ごせればと願って、長年に渡って続けております。

大型動物、小動物関係なく、私達の社会には子ども達を育てる、見えない「よさ」が成長期には欠かせない生活の場の一つだと思い続けているのです。社会性は大人になってから身につくものではなく、ただ言葉や物の上で、やりなさい、できないを言っても育つものではないと思っています。最後になりますが、人を育てるには、人が継ぎ合っていくところに、人と人の和ができ、励まし合い、つながりができ、物事が成り立っていくと思います。